

「早稲田祭 2012」運営スタッフ憲章

---

「早稲田祭 2012」運営スタッフが考える早稲田大学における理想の学園祭

- (1) 早稲田大学における、年一度の全学的な早稲田文化の祭典
- (2) サークル活動をはじめとした課外活動、ゼミ・テーマカレッジなどの学術・研究活動、早稲田大学界隈の商店街などの地域活動、その他全ての早稲田文化の学内外への最大の発表の場
- (3) 学生を中心とした「早稲田」に関わる様々な主体（教職員・地域住民・校友等）の自由な表現活動を通じて早稲田文化の発展を促進する場
- (4) 学生を中心とした「早稲田」に関わる様々な主体（教職員・地域住民・校友等）がともに刺激・交流し合う場
- (5) 関わるすべての人がともに「早稲田」を実感し、感動し合える場

テーマ

---

関わる全ての人々が夢追い人で在り続ける

「早稲田文化」と「進取の精神」

「文化」とは、科学・技術・学問・芸術・道徳など、人間が自然に手を加えて形成する物心両面の成果であり、人が生活を営むありとあらゆるところに存在する。早稲田の地に根づき、学生や地域住民、校友らの手によって創られる「早稲田文化」もその一つであり、憲章はその発展を奨励している。また、早稲田大学は古くから「進取の精神」を謳う大学である。「進取の精神」とは、早稲田大学における固有の定義としては、教旨より「学問の活用を目指す意志」と言い換えられるが、一般的には、自ら進んで物事を為す積極性や開拓精神を指し、その姿勢は校歌や第一応援歌の歌詞にも見て取れる。前へ前へ進もうとする、諦めない向上的な強い意志である。

夢追う姿との出逢いと感化、存続

早稲田祭は、当日へ向かう文化の発信者の集合体である。「将来の夢」や「数年後の理想像」のような大きなものでなくとも、明確な目的意識を持ち、それを達成するために積極的な姿勢をもって奔走している、このような人間を「夢追い人」とすると、早稲田祭における文化の発信者は確かに「夢追い人」であり、理想へと進み行く「進取の精神の所持者」である。

そんな彼らが、「早稲田祭 2012」当日に最高の夢を花開かせることができるように強い進取の精神を持ち続け、ずっと夢追い人で在り続けること。文化の受信者は夢の所持にかかわらずその姿を見て感化され、夢を持つ素晴らしさやその姿の尊さに気づき、彼らもまた自分の夢を追うようになること。早稲田祭は、このような影響力を秘めている。

「早稲田祭 2012」は、夢追い人で在り続けることを奨励し、またその一方で夢追い人を生み出す。「早稲田祭 2012」では、そのような想いと熱気、出逢いに溢れる場が実現し、「早稲田祭 2012」を通して、夢追い人で在り続ける精神の構築が促進される。

「早稲田祭 2012」のテーマ、それは、関わる全ての人々が夢追い人で在り続けることである。

ビジョン

---

「人」の成長と「文化」の発展

夢追う姿の連鎖と波及

「早稲田祭 2012」運営スタッフの目指すべき理想、それは早稲田文化の発展であることは自明である。しかし、早稲田祭が接触している文化は、早稲田文化に留まらない。早稲田祭の影響力は「早稲田文化」に限らず、関わる人が営む全ての「文化」に及ぶ。

夢追い人との出逢いを通じ、関わる全ての人々が「早稲田祭 2012」後も夢追い人で在り続け、より高みを目指す進取の精神を持ち続ける。それは、関わる全ての人々が成長し、彼らの人生が豊かになるだけでなく、それぞれが営む「文化」の発展に繋がっていく。その発展した文化は、少しずつでも前へ進もうとする人の姿を応援し、それが根づく環境は、また新しい夢と夢追い人を生み出していく。

「人」が成長し、「文化」が発展する。その連鎖と波及は、「夢追い人」を通して無限に繋がり、広がっていく。